

アメリカの高校生と交流会

7月4日、大方高校の生徒が、黒潮町内でショートステイ中のアメリカの高校生と交流会を開きました。



国籍や言葉が違って同じ高校生。すぐに打ち解けていました。

「海外の同年代と交流できる貴重な体験を提供したかった」とショートステイ先の保護者や大方高校の教員らの提案により実現したもので、大方高校からは5人の生徒が参加。今取り組んでいる活動内容を英語で紹介したり、レクリエーションをしたりして交流を深めました。最初はお互いに恥じらいがあったものの、「好きな食べ物は何?」「世界一周するのが夢」など、英単語を確認しながらの会話が始め、あつという間の2時間。「まだまだ話したいことがたくさんあるのに」といった様子でした。

南海地震が起ったら、どうしますか?

入野小学校6年生は総合的な学習の時間を利用して、防災学習に取り組んでいます。



7月5日の授業では、これまで学習してきた内容の応用として、役場の防災担当職員を講師に、より実践的な学習をしました。

この日のテーマは「南海地震が起ったら、どうしますか?」。翌日6日の早朝6時、震度6強の揺れが100秒間続く地震が起ったと想定し、「地震が起きたとき」「揺れが収まってから避難場所に行くまで」「避難場所についてからの3つの場面に分け、予測される問題や自分たちがすべきことなどを出し合いました。

最初は見慣れない住宅地図に、自分の家を見つけ出す作業にさえ戸惑っていました。津波による浸水区域を書き込むにつれ、「10分でここまで来るがやったら、15分やったらどこまで来るが?」と徐々に現実的な話が聞こえてきます。



「ここには一人暮らしのおばあちゃんがおる」「ここは山が崩れそう。重要な情報が次々と書き込まれていきます。」

授業の最後には、班ごとにまとめた意見を発表し、自分たちが今できることなどを確認しました。

実際に地震が起ったら誰もがパニックになります。普段の生活の中で、避難場所や避難経路を意識し、どう行動すべきか事前に準備しておくことが必要です。また、授業で学習したことを家に持ち帰り、家族どうして話し合うことも被害を減らすことにつながります。

粘土でランプ作りに挑戦

「わくわくチャレンジ教室」が8月3日、大方高校美術室にて開かれました。



「何を作ろうか」。親子で相談しながら粘土をこねる姿は、とても楽しそう。



3週間ほど乾燥させ、800度のかまどで8時間素焼きします。中に電池で光るランプを入れて完成です。

これは、大方高校の活動を地域の方に知ってもらい、学校に来て学習してもらおうと、地域貢献活動の一貫として始めたもので、今回が1回目。

この日のテーマは「親子で焼きもの〜ランプをつくらう〜」。小学校2〜3年生、6組12人の親子が参加し、蒸し暑い教室で汗をかきながら粘土細工にチャレンジしました。

今後は、算数や体育などの教室も増やしていく予定とのこと。

「地域産品をいかしたものづくり」研修会開催

7月15日、一橋大学商学部教授の関満博先生を講師に招き、全国でものづくりに汗を流している経営者たちの紹介とそのヒントについてお話をしていたきました。



「遊び感覚で、楽しくないとダメ」ということが印象に残りました。

会場の健康福祉センター研修室には、近隣市町村から多くの方が参加し、先生のユーモアを交えた講義に熱心に耳を傾けていました。

八戸市で始まったB級グルメNo1を競うイベント、「B1グランプリ」などを例に挙げ、全国各地でまちおこしのために活躍するグループの工夫や情熱には見習うべきものが多く、地方のまちでもやれるという可能性を感じさせてくれる内容でした。

限界の向こうへ進む!! 黒潮の夏

第17回 いごっそうアクアスロン大会開催!



7月25日、「第17回 いごっそうアクアスロン大会」が佐賀港周辺で開催されました。

連日記録的な猛暑が続く中、年齢などで分けた12部門に県内外から過去最高の189人が参加。照り返す夏の日差しにも負けず、泳いで走って限界の向こう側に挑みました。

最も長い一般の部のコースは、佐賀港湾に設置された一周750mのブイを2周回るスイム(水泳)が1.5km、黒潮スカイライン折り返しのラン(マラソン)が10kmと過酷なものとなっています。

当日の天候は快晴で、午前8時の気温はすでに29度。スタートの合図とともに「鉄人」たちは水しぶきを上げながら海へと突進! トップの選手は22分ほどで浜に上がり、「がんばれ!」の声援を背にランへと向かいます。

3人がリタイアしたものの、けが人や事故もなくレースは無事終了。審判長の大会総括では「女子の高橋選手をはじめ、有望な若い選手が育ってきている」と大会に寄せる期待を述べました。また、毎年恒例となっている表彰式後の「お楽しみ抽選会」では、し

めじセットやカツオのタタキなど、佐賀ならではの商品に会場は大盛り上がり。岸本実行委員長のマイクパフォーマンスも飛び出し、今大会も大成功のうちに幕を閉じました。

【ジュニア個人の部】

- 男子 ①中川晴貴 ②中田聖羅 ③生田翔一
- 女子 ①黒岩秋羽 ②岡本真由子 ③加藤友唯

【中学生個人の部】

- 男子 ①島内元希 ②井上裕哉 ③今西樹理矢
- 女子 ①五井春香 ②徐亜斗香

【一般の部・初カッソ】

- 男子 ①九町俊吾 ②山下泰史 ③谷川延久
- 女子 ①高橋世奈 ②嶋夏菜子 ③森岡瑛美

【一般の部・こぎカッソ】

- 男子 ①西川浩司 ②三好英昭 ③増田久人
- 女子 ①石川清美 ②中村あゆ子 ③正宗沙和子

【一般の部・もどりカッソ】

- 男子 ①高橋仁 ②古橋秀之 ③朝倉壽信
- 女子 ①松本孝子 ②堀川美香 ③千田明美

【一般団体リレーの部】

第17回 いごっそうアクアスロン大会について(お礼)

7月25日に過去最多となる189名の参加者をお迎えして、第17回 いごっそうアクアスロン大会を盛大に開催いたしました。

大会当日は、日差しも強く真夏日となりましたが、事故もなく無事に終了することができました。

これも、暑い中ボランティアでスタッフとして協力してくださった皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

紙面をお借りしてお礼申し上げます。



いごっそうアクアスロン大会
実行委員会
実行委員長 岸本 四郎

- ①堀川・植村 ②さくらAC ③黒潮TC

- 【県民スポーツフェスティバルの部】
- ①筒井洋一 ②地引光二 ③有澤記朗 ④沖 勇一 ⑤竹崎 弘 ⑥川崎 誠

地域の絆のために

「地元のお年寄りが喜んでくれたのがうれしい。少しでも地域に貢献できたと思う」。そう話すのは、芝部落の壮青年部副部長、板山裕一さん。7月18日に行われた賀茂神社の夏祭りで、ちよつとしたイベントを企画しました。

祭りでは例年、早咲、浜の宮、万行、入野本村、芝の5部落が1年交代で神輿を担いでおり、今年は芝部落の番。

通常は境内の周囲を回るだけですが「今年には法被を新調したし、地元のお年寄りにも見せてあげたい」と特別に許可を取り、芝集会所まで神輿を担ぎました。神輿が集落まで入ってくるのはとても珍しく、約30年ぶりの事。午前9時すぎ、神輿をひと目見ようと見物客が集まり始め、中には手を合わせて拝むおばあちゃん姿も。最後は神輿をバツクに記念撮影が行われ、地元の皆さんはたいへん喜んでいく様子でした。

中心となった壮青年部は、地区の20代から50代までの青年らが5年ほど前に結成した集まりで、花見や草刈などの部落行事に参加するなどして

活動しています。

「近所に住んでいても顔を合わせる機会がない。人とのつながりを大切にしたい」と結成のきっかけを話してくれました。「大それたことは考えていないけど、地域の助け合いや絆につながれば...」。

板山さんの話からは、地元愛だけでなく強い責任感も伝わってきます。



少子高齢化が進む今日、集落維持や伝統継承のため、若者を中心とした活動は今後ますます重要となってきます。



商工会女性部の活動

黒潮町商工会女性部では、毎月第1土曜日に入野松原の清掃をしています。「まちのために、何か私たちにできることをやろう」と2年ほど前から始めた活動です。

朝8時、日よけ対策をした部員たちがふるさと総合センター前に集合。ごみ袋を片手を通り大方球場の辺りまで約1時間かけ、ごみ袋6枚分のごみを拾いました。

女性部ではこの他にも、商工会館で太極拳教室を開いたり、JR土佐賀駅横の「なぶら公園」に花を植えたりと活発に活動しています。



ごみは空き缶やペットボトル、たばこの吸殻などがほとんど。モラルを守って私たちのまをきれいにしましょう！



あつまれ魂拓人

今年で9回目となる「あつまれ魂拓人」が8月7日、カオオふれあいセンター一番館で開かれました。

これは、人権問題をテーマに活動する住民グループ「魂拓人」が、「地区外の人が中心となって、部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくし、人を大切にすまことにしていこう」という願いのもとに始めたお祭りで、毎回、人権ソングライター森秀一さんのライブや人権クイズ、女相撲などの催しに多くの方が集まっています。

人権クイズでは、部落問題をはじめ、子どもや高齢者、障がい者などに関する問題が出され、訪れた方はお祭りの雰囲気を楽しみながらも、真剣な表情で考え込んでいました。



決勝問題にはかなり難しい問題も。正解すると客席からは歓声があがっていました。

この日だけの特別企画

毎月第2日曜日にネストウエストガーデン土佐駐車場が開かれている「海辺の日曜日」が8月7日、この日だけの特別企画「夕焼け市」として、夕方5時からスタート。涼しくなった頃から徐々に人が集まり始め、いつもと違った日曜市を楽しみました。

辺りが薄暗くなると、高知大学の学生グループによって並べられたキャンドルに火が灯され、幻想的な雰囲気。幡多で活躍中のスタイルパユニットのライブもますますヒートアップし、会場を沸かせていました。



スティールパン独特の音色が夕焼け空に響き渡りました！

第3回「子ども広場」 鈴地区で夏を満喫！



「子ども広場」は、町内の小学生を対象に、豊かな自然に触れ合うこと、学区を越えた交流でお互いの親睦を深め合うことを目的に、町青少年補導センター主催で行われる事業です。今年3回目となる「子ども広場」は8月10日、町内の小学生40人が参加し、海水浴や川遊びなどをして、鈴地区ならではの夏を存分に楽しみました。

対面式では、今回の受け入れ団体である「佐賀北部地域協議会」のメンバーで鈴区長の森田幸男さんが、「今日出会った新しい友達と仲良くし、鈴での一日を楽しく過ごして

ください」とあいさつ。さつそく6つの班に分かれ、午前のメニューが始まりました。

クルージング



潮をかぶりながらも、みんな笑顔でピース。

1班から順に漁船に乗って、20分ほど行った先にある「ふうやの滝」を目指し出発。波がやや高く船酔いしてしまう子もいましたが、スピードが上がると「キヤー。飛びそう！」と大はしゃぎ。

昼食の準備



この日のメニューは、カレーと野菜サラダです。

クルージングの順番が回って来るまで、他の班は昼食の準備。スタッフに習って、たっぷりの野菜を切りました。できあがったカレーを持って市場に移動。地元の方も飛び入り参加し、にぎやかな昼食会となりました。

川遊び・海水浴



午後からは、川遊びと海水浴の2グループに分かれて自由時間。少し水が冷たかったものの、防波堤からの飛び込みや川エビ捕りにみんな夢中です。

スイカ割り



締めくくりのスイカ割りでは、なかなか割れない班もあり、「もっと右!もっと右!」と大盛り上がり。



最後にみんなが整列してお礼のあいさつ。「来年もまた来たい」、「友達ができてとてもうれしい」と感想を話してくれました。



一日を終えた森田区長は、「これだけ子どもが集まると楽しい。子育てしていたころが懐かしいね」と鈴を出発したバスを見つめながら話してくれました。

「シーサイドギャラリー」

2010 夏「開催！」

夏の恒例イベント「シーサイドギャラリー2010夏」が8月15日、入野海岸一帯で行われ、町内外から訪れた多くの方が、盆踊りや花火を楽しみました。

第1部は、午後1時「砂浜投げキッス」からスタート。砂浜からの投げ釣りで、釣り上げたキスの大きさを競います。親子連れなど23組が参加し、22・1cmのキスを釣った田中伸幸さん（入野）が優勝しました。

また、来場者の注目を集めていたのは、ピンクの衣装に身を包んだフラダンスグループ「ルアナ」と楽しい仲間たち。夕焼け空をバックに優雅な踊りを披露してくれました。

会場が暗くなると、4チーム42人の踊り子による盆踊り大会。「大方音頭」や「新佐賀音頭」の音楽に合わせて、太鼓の力強い音が砂浜に響き渡ります。終盤には飛び入り参加も加わり、大人も子どもも飛んだり跳ねたり。激しい踊りにみんな汗だくです。

イベントのフィナーレには約500発の花火が打ち上げられ、あちらこちらから拍手や感嘆の声が。

「来年は家族も連れてくる!」。高知市から来たグループは、日焼けした赤い顔で興奮ぎみに話してくれました。